

東海北陸厚生局長 殿

開設者名 学校法人 藤田学
理事長 小野雄

藤田保健衛生大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき、平成22年度の業務に関して報告します。

記

- 1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3. 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	230人
--------	------

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
- 4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	448人	148.0人	474.4人	看護補助者	172.0人	診療エックス線技師	0.0人
歯科医師	12人	7.0人	12.7人	理学療法士	29.0人	臨床検査技師	107.0人
薬剤師	70人	0.0人	70.0人	作業療法士	17.0人	臨床検査衛生検査技師	0.0人
保健師	0人	0.0人	0.0人	視能訓練士	8.0人	その他	0.0人
助産師	23人	1.0人	23.4人	義肢装具士	0.0人	あん摩マッサージ指圧師	0.0人
看護師	1,123人	14.0人	1,131.8人	臨床工学士	29.0人	医療社会事業従事者	7.0人
准看護師	10人	2.0人	11.3人	栄養士	11.0人	その他の技術員	11.0人
歯科衛生士	1人	0.0人	1.0人	歯科技工士	2.0人	事務職員	189.0人
管理栄養士	24人	0.0人	24.0人	診療放射線技師	78.0人	その他の職員	70.0人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。
 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。
 それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たりの平均入院患者数	1,156.0人	11.2人	1,167.2人
1日当たりの平均外来患者数	1,907.2人	77.5人	1,984.7人
1日当たりの平均調剤数			2,456.0剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経皮的冠動脈形成術	取扱患者数	404人
当該医療技術の概要	<p>身体に大きな傷をつけることなく狭くなった冠動脈を拡げるために行う治療法で、手術は足の付け根の大腿動脈または腕の橈骨動脈や上腕動脈から「カテーテル」という細い管を入れ、冠動脈の狭くなった部分に挿入し、そこで風船を膨らませることにより血管を押し拡げる治療である。ほとんどの症例で、「ステント」という小さな網目状の金属の筒を血管に置くことにより、狭くなった部分を筒が支えて血管の中が拡がった状態を保持する。これらの治療のためOCT(Optical Coherence Tomography)を導入した。OCTとは近赤外線を用いた新しい画像診断システムで、特徴は高い画像分解能にある。OCTを用いて狭窄部のより詳細な形態評価を行い、最適な治療を行っている。</p>		
医療技術名	カテーテルアブレーション	取扱患者数	78人
当該医療技術の概要	<p>カテーテルという細い管の先から高周波電流を流して、接している生体組織を小さく焼き切ることを意味する。カテーテルの先には心電図を計測するための電極がついていて、それで心臓の内壁の心電図を計測し、心臓の異常な部分を示す「マップ」を作る。異常な部分にカテーテルの先の電極から高周波電流を流し、カテーテルの先に触れているわずかな領域の心臓組織だけが電氣的に焼灼する。</p>		
医療技術名	埋め込み型除細動器	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要	<p>鎖骨の下の胸部に植込み、全身麻酔もしくは静脈注射で眠り薬を入れて眠っている間に手術を行う。手術時間は約3時間である。皮下に植込み型除細動器が入るポケットを作ります。通常は左の鎖骨の下へ走っていく静脈に沿ってリード線を心臓の中に挿入し、心臓の内壁にリード線を接触固定する。心臓側のリード線の反対側に植込み型除細動器を接続し皮下のポケットにしまっ、切開した皮膚を縫合する。</p>		
医療技術名	傍腫瘍性抗神経抗体の測定	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要	<p>担癌患者神経症状の原因となる抗神経抗体の検出をウエスタンブロット法で実施</p>		
医療技術名	抗中性糖脂質抗体	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要	<p>種々の神経免疫性神経疾患の原因抗体としての本抗体の検出をサーマルプロテイング法で実施。</p>		
医療技術名	培養皮膚線維芽細胞を用いたライソソーム水解酵素活性測定	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要	<p>遺伝性代謝疾患であるリポドーシスの診断の為のライソソーム水解酵素活性測定</p>		

医療技術名	腹膜透析	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要	先天性の腎不全に対して腹膜透析を導入し、その後の維持・管理をした		
医療技術名	一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要	新生児遷延性肺高血圧症例に対し、肺動脈拡張を目的として一酸化窒素投与回路を人工呼吸器の回路に組み込み一酸化窒素吸入療法を行った		
医療技術名	生体部分肝移植術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要	肝不全の患児に対し肝摘除し、ドナーの肝を移植する		
医療技術名	単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要	臍部の一つの穴から胆嚢を摘出する手技である。従来穴が4つであったが、一つだけのため、患者さんに低侵襲である。高度な鉗子操作が必要である。		
医療技術名	肝膵同時切除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要	胆嚢癌や広範囲胆管癌などの肝切除術と膵頭十二指腸切除術を同時に行うもので、多くは血管合併切除再建が行われる。侵襲の強い術式であり、高度な技術が必要とされる		
医療技術名	膵機能温存手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要	低悪性度の膵疾患に対して行われるもので、術後QOLが向上する。十二指腸温存膵頭切除術、脾臓温存膵体尾部切除術、膵中央切除術などである。		
医療技術名	ロボット膵切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要	da vinci surgical systemを用いて膵切除は低侵襲術式であり、回復が早い。		

医療技術名	ロボット(da Vinci)による食道手術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要	da Vinci surgical systemを使用した食道手術・胸腔鏡下手術の低侵襲性と、ロボットによる精緻な操作性を兼ね備えた手術法		
医療技術名	ロボット(da Vinci)による胃手術	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要	da Vinci surgical systemを使用した胃手術・腹腔鏡下手術の低侵襲性と、ロボットによる精緻な操作性を兼ね備えた手術法		
医療技術名	胸腔鏡下食道手術	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要	胸腔鏡下での食道癌手術。開胸手術と比較して低侵襲であり、癌に対する根治性も遜色ないと考えられる手術法		
医療技術名	腹腔鏡下胃手術	取扱患者数	133人
当該医療技術の概要	腹腔鏡下での胃癌手術。開腹手術と比較して患者様に対する侵襲が少ないと考えられる手術法		
医療技術名	遺伝子解析に基づいた神経膠腫に対する化学療法選択	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要	神経膠腫患者において化学療法感受性に関係する遺伝子異常を解析し、その結果によって(維持)化学療法剤の選択を行う。		
医療技術名	脊髄電気刺激療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要	遷延性意識障害患者に対し、上位頸髄硬膜外に電極を留置して電気刺激を行うことで意識状態の改善を図る。		
医療技術名	複合的アプローチによる脳動脈瘤クリッピング術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要	通常のクリッピング手術では安全かつ完全な治療が困難な巨大脳動脈瘤に対して、神経内視鏡を用いて手術顕微鏡で直視できない部分の正常血管を観察し、血管内治療の技術を応用した血流遮断を行いながら、クリッピング術による根治術を行う。		

医療技術名	神経内視鏡技術を応用した脳深部腫瘍の生検術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要	神経内視鏡と手術ナビゲーションを応用して、脳深部に発生した腫瘍に対して正確な組織採取と確実な止血操作を特徴とする組織生検術を行う。		
医療技術名	腹腔鏡下直腸固定術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要	腹腔鏡下手術にて直腸を固定する手術。 完全直腸脱の根治性が高く低侵襲の手術である。		
医療技術名	ロボット支援下大腸切除術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要	ロボット手術装置を用いた手術。 解像度が高く3D画像から手術を行なう為、根治性を保ち患者のQOLを上げる手術である。		
医療技術名	肺動脈血栓内膜摘除術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要	血栓塞栓性肺高血圧症は内科的治療には限界があり、外科的治療が非常に有効である。本手術を施行しているのは日本で数病院であり、18℃の超低温として循環停止下に肺動脈の血栓内膜摘除術を行い、術後著明な呼吸循環動態改善が得られる。		
医療技術名	da Vinciロボット支援肺癌手術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要	原発性肺癌に対するda Vinciロボット支援による肺葉切除+縦隔リンパ節郭清術および肺区域切除術		
医療技術名	完全胸腔鏡下肺葉切除+縦隔リンパ節郭清術	取扱患者数	81人
当該医療技術の概要	完全胸腔鏡下での原発性肺癌に対する肺葉切除+縦隔リンパ節郭清術		
医療技術名	完全胸腔鏡下肺区域切除(+縦隔リンパ節郭)	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要	完全胸腔鏡下での原発性肺癌に対する肺区域切除(+縦隔リンパ節郭清術)		

医療技術名	気管・気管支ステント挿入術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要	気管および気管支狭窄に対するステント挿入術(一部PCPSを併用)		
医療技術名	胸腔鏡下膿胸搔爬ドレナージ術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要	完全胸腔鏡下の膿胸搔爬ドレナージ術		
医療技術名	胸腔鏡下縦隔腫瘍摘出術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要	胸腔鏡下の縦隔腫瘍(胸腺腫、神経原性腫瘍等)の摘出術、および重症筋無力症に対する拡大胸腺摘出術		
医療技術名	口唇口蓋裂早期手術	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要	口唇口蓋裂児に対し、早期口唇形成術および早期顎誘導に引き続き口蓋形成術を行う。治療に当たっては口唇口蓋裂センターに關与する医師がチームアプローチで行う。		
医療技術名	形成外科的内視鏡手術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要	最小侵襲外科的発想から、形成外科においても体表面の目立つ部位に手術痕を残さない、もしくは可能な限り小さな創から治す工夫がなされている。漏斗胸をはじめ、皮下腫瘍、顔面骨骨折などに対して内視鏡を導入することで、小切開からの手術が可能となった。		
医療技術名	頭蓋顎顔面領域の三次元骨延長	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要	悪性腫瘍切除後、あるいは外傷後の骨軟部組織の広範な欠損に対し、遠隔部位からの血管柄付き遊離皮弁を採取し、これを顕微鏡下に血管吻合、神経縫合を行い、移植する。整容的、かつ機能的再建外科治療として成果を挙げている。		
医療技術名	マイクロサージェリーを利用した各種血管付き自家・複合組織移植	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要	悪性腫瘍切除後、あるいは外傷後の骨軟部組織の広範な欠損に対し、遠隔部位からの血管柄付き遊離皮弁を採取し、これを顕微鏡下に血管吻合、神経縫合を行い、移植する。整容的、かつ機能的再建外科治療として成果を挙げている。		

医療技術名	腰部脊柱管狭窄症手術	取扱患者数	111人
当該医療技術の概要	顕微鏡を使用して行う椎弓形成手術とからだの支持性を再獲得するための脊椎固定手術を使い分けて行っている		
医療技術名	頚椎症性脊髄症および神経根症に対する手術	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要	顕微鏡を使用して行う最小侵襲の除圧手術と固定手術を使い分けて行っている		
医療技術名	脊柱側弯症手術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要	脊柱側弯症と脊柱後弯症にたいして矯正固定手術を行い、生活しやすくするための助力をしている。		
医療技術名	人工股関節再置換術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要	人工股関節の長期使用による摩耗やゆるみに対する治療として実施。取り扱う機種が多岐にわたるほか、再建には同種骨移植を用いることも多く、非常に高度の技術と経験を要する。		
医療技術名	人工股関節感染に対する抗菌薬含有セメントスパーサーモルト留置術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要	人工股関節の感染に対して感染制御のために行う手術である。多くはメチリン耐性グラム陽性球菌に対して実施されており、難治性の感染を制圧するためのノウハウを必要とする。		
医療技術名	最少侵襲外科手術法(MIS)による人工股関節置換術	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要	前方ないし後方アプローチによる小切開(8cm程度)および筋肉温存(筋肉を切離せず筋間中隔から進入)により実施する人工股関節置換手術である。術後のリハビリや入院期間の短縮が可能である一方、正確性と高度の技術および経験を要する。		
医療技術名	セラミック人工骨にて再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要	手の月状骨軟化症にて鈴木式のセラミック人工骨で置換し、再建する手術です。		

医療技術名	人工肘関節置換術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要	変形性肘関節症、リウマチ性肘関節症、骨軟骨欠損を伴う肘関節内粉碎脱臼骨折に対して人工肘関節置換術で良好な機能の肘関節を再建します。		
医療技術名	手関節形成術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要	変形性肘関節症、関節リウマチによる手関節破壊、前腕骨骨折変形治癒に対して矯正骨術を含む手関節形成を行い良好な手関節機能を再建します。		
医療技術名	人工指関節置換術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要	変形性指関節症・関節リウマチによる指関節破壊・外傷による指関節破壊に対し、人工指関節置換術で再建する		
医療技術名	肋軟骨移植による手指関節形成術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要	外傷で骨軟骨欠損を生じた指関節を肋軟骨移植で再建する。		
医療技術名	ストロンチウムを使用	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要	転移性骨腫瘍に対してのストロンチウムを使用		
医療技術名	薬物内服負荷試験	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要	当該医療技術の概要： 薬疹の被疑薬もしくは今後内服可能な薬を検索する目的で行う。入院の上、点滴ルート を確保し、薬剤を常用量の1/1000量から順に時間をかけて常用量まで内服する。 原因薬剤および成分を解析し、さらに公叉反応性などの分析も行っている。		
医療技術名	食物依存性運動誘発アナフィラキシーに対する誘発試験	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要	入院の上、点滴ルートを確保し、即時型アレルギー症状を起こした可能性のある食物を摂取後にトレッドミル(心電図室)を用いて運動負荷をかける。またアスピリン誘発に関しては、アスピリン誘発に関しては、アスピリンとのコンビネーション投与なども行っている。本検査によりアナフィラキシー症例の原因抗原を解析し、患者のQOLの向上に貢献している。		

医療技術名	皮膚貼布テスト(パッチテスト)	取扱患者数	256 人
当該医療技術の概要	遅延型アレルギーの検査目的で行う。感作が疑われる抗原を背部に閉鎖貼布し検査を行う。ジャパニーズスタンダードや金属などのようなアレルゲンの他に、工場で使用している薬品類などの職業性アレルギーに対してはパッチテストの結果を元に接触感作物質の分析・解析を行っている。		
医療技術名	プリックテスト	取扱患者数	184 人
当該医療技術の概要	即時型アレルギーの検査目的で行う。アレルギーの原因と考えられる食物などを用いる。さらにラテックスアレルギーや花粉-食物アレルギー症候群の精査のために、リコンビナント抗原を用いた検査も行い原因抗原の同定を試みている。		
医療技術名	腎移植術(生体)	取扱患者数	9 人
当該医療技術の概要	生体腎移植はすでに確立した手術手技であり、最近では血液型不適合ドナーや夫婦間腎移植などが増加しており、いずれも良好な結果を得ています。股ドナーからの腎摘出術も低侵襲で安全性の高い腹腔鏡を用いた手術方法に変化しています。		
医療技術名	腎移植術(献腎)	取扱患者数	11 人
当該医療技術の概要	当院では現在まで120例を超える献腎移植が行われ、心停止ドナーからの腎移植成績として海外に誇る実績を積んできました。また心停止、脳死下での腎摘出数は単一施設としては国内で最多です。		
医療技術名	脳死隣腎同時移植	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要	1型糖尿病で慢性腎不全を合併した患者2名に対し、脳死ドナーから隣腎同時移植を行いました。非常に難しい技術を要する手術であり、わが国で可能な施設は限られております。		
医療技術名	腹腔鏡下腎(尿管)全摘術	取扱患者数	17 人
当該医療技術の概要	限局性腎細胞癌および腎盂・尿管癌に対して施行される低侵襲的手術療法です。術中の出血量は少なく、術後の疼痛も軽減されるため対象疾患のほとんどがこの術式で行われております。また、制癌効果の関しても開放手術に比べて遜色ない成績が得られています。		
医療技術名	膀胱全摘+代用膀胱造設術	取扱患者数	3 人
当該医療技術の概要	若年者や根治性の高い浸潤性膀胱癌患者さんに対して術後の排尿に関するQOLを重視した尿路変更術です。これまでの尿路変更術では蓄尿バッグを体外に装着しなければなりませんでした。腸管を用いた体内でのリザーバーに蓄尿かつ自排尿を可能にすることにより術後QOLの改善が得られています。		

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術 (da Vinci)	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要	従来の腹腔鏡下前立腺全摘術は非常に高い技術が必要とされ、ごく限られた施設間においてのみ施行されていました。しかし、ロボット (da Vinci) 手術の特徴である3-D画面や270度の可動域を持つ鉗子を用いることにより正確かつ安全な手術が可能となります。わが国においても昨年より導入する施設が増えてきておりますが、東海地方では最多の症例数が安全に施行されています。		
医療技術名	腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要	重症の子宮腺筋症症例に対する妊孕生温存手術。		
医療技術名	胎児先天性心疾患の出生前超音波診断	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要	胎児先天性疾患は全出生児の1%に存在し、このうち30%は大奇形で、その一部には出生早期から新生児科と連携した手厚い管理が必要となる。当科では近隣の医療機関と協同し、当該疾患のスクリーニングと早期診断を実施し、病診・病病連携システムの構築も合わせて、新生児の予後の向上に務めている。		
医療技術名	3次元4次元超音波検査の臨床的活用	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要	3次元立体像ならびにこれに時間を加えた4次元超音波検査を応用し、骨盤内臓器や胎児異常の出生前診断に活用している。		
医療技術名	硝子体手術	取扱患者数	1057 人
当該医療技術の概要	網膜疾患の治療全般を行うが特に当院ではoffissという特殊顕微鏡を使用しているため安全かつ効率的に手術を行うことができる。		
医療技術名	光線力学療法	取扱患者数	20 人
当該医療技術の概要	加齢黄斑変性症に対してベルテポルフィンという薬剤を投与した後に網膜に対して光凝固術を行う。		
医療技術名	セルジンガー一方による超選択的動注化学療法	取扱患者数	11 人
当該医療技術の概要	頭頸部進行癌に対してセルジンガー一方により、抗癌剤を超選択的に腫瘍の栄養動脈に注入する方法である。		

医療技術名	自家遊離組織移植術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要	頭頸部癌摘出術後に生じた組織欠損に対して、微小血管吻合術を用いて自家遊離組織移植を行い、形態と機能の再建を行う。		
医療技術名	ロボット手術の麻酔管理	取扱患者数	116人
当該医療技術の概要	ロボット手術の麻酔管理: 上部消化管外科52例、泌尿器科42例、下部消化管外科8例、呼吸器外科7例、肝・胆道外科7例		
医療技術名	SHEDD-fA	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要	SHEDD-fA(Sustained high-efficiency daily diafiltration using a mediator-adsorbing membrane) 血液浄化の3要素である「拡散」「濾過」「吸着」を最大限に効率化し、各種ヒューモラルメディエータの除去を目的とした急性血液浄化法。		

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	71人	・膿疱性乾癬	6人
・多発性硬化症	50人	・広範脊柱管狭窄症	4人
・重症筋無力症	46人	・原発性胆汁性肝硬変	15人
・全身性エリテマトーデス	414人	・重症急性膵炎	7人
・スモン	0人	・特発性大腿骨頭壊死症	51人
・再生不良性貧血	25人	・混合性結合組織病	51人
・サルコイドーシス	89人	・原発性免疫不全症候群	11人
・筋萎縮性側索硬化症	10人	・特発性間質性肺炎	8人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	230人	・網膜色素変性症	13人
・特発性血小板減少性紫斑病	70人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	54人	・肺動脈性肺高血圧症	8人
・潰瘍性大腸炎	287人	・神経線維腫症	7人
・大動脈炎症候群	21人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	15人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	14人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	18人
・脊髄小脳変性症	51人	・ライゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	5人
・クローン病	235人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	4人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患	130人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	12人
・後縦靭帯骨化症	63人	・肥大型心筋症	1人
・ハンチントン病	5人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	51人	・ミトコンドリア病	3人
・ウェゲナー肉芽腫症	7人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	56人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症	23人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害	34人
		合計	2302人

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・ センチネルリンパ節生検	・
・ 悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・
・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1, 2	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には業務報告を行う3年前の4月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供したものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の 状況	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。
	<input type="checkbox"/> 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査 部門と開催した症例検討会の開催頻度	剖検CPC 年12回 生検手術材料のCPC 年60回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 50 例 剖検率 4.9 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	NSAIDs不耐症の病態解明と診断治療指針作成に関する研究:アスピリン喘息の診断に関する研究	榊原 博樹	呼吸器内科・アレルギー科	2,000千円	補 委	厚生労働省
2	睡眠医療における医療機関連携ガイドラインの有効性検証に関する研究:睡眠時無呼吸症候群関連ガイドラインの検証	榊原 博樹	呼吸器内科・アレルギー科	600千円	補 委	厚生労働省
3	GvH反応とGvL反応の差を決定するHLA遺伝子および非HLA遺伝子の解明	森島 聡子	血液内科	3,000千円	補 委	文部科学省 化学研究費 新学術領域
4	混合性結合組織病の病態解明と治療法の確立に関する研究	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科	1,700千円	補 委	厚生労働省科学研究費補助金
5	肺高血圧症を合併する混合性結合組織病における抗内皮細胞抗体の対応抗原の研究	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科	700千円	補 委	藤田学園教員研究助成費
6	膠原病患者におけるEBウイルス感染の実態の解明	深谷 修作	リウマチ・感染症内科	300千円	補 委	藤田学園教員研究助成費
7	リウマチ膠原病領域における深在性真菌症の早期診断および新規抗真菌薬の効果の検討	加藤 賢一	リウマチ・感染症内科	200千円	補 委	藤田学園教員研究助成費
8	進行性腎障害に関する調査研究	湯澤 由紀夫	腎内科	2,500千円	補 委	厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業
9	糖尿病性腎症の病態解明と新規治療法確立のための評価法の開発	湯澤 由紀夫	腎内科	500千円	補 委	厚生労働省科学研究費補助金 腎疾患対策研究事業
10	脂肪由来細胞を用いた腎疾患治療の開発 ―再生促進作用と免疫抑制作用の融合―	湯澤 由紀夫	腎内科	150千円	補 委	文部科学省科学研究費補助金 基盤C
11	メタボローム解析による新規AKIバイオマーカーの網羅的探索と検査薬の開発	湯澤 由紀夫	腎内科	600千円	補 委	文部科学省科学研究費補助金 基盤B
12	第3のガスメッセンジャー硫化水素の誘導性産生機序とその役割の解明	湯澤 由紀夫	腎内科	100千円	補 委	文部科学省科学研究費補助金 基盤C

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
13	患者血清を用いた免疫複合体疾患動物実験モデルの樹立	湯澤 由紀夫	腎内科	150千円	補 委 文部科学省科学研究費補助金 基盤C
14	脂肪由来間葉系幹細胞を用いた免疫抑制療法の開発	湯澤 由紀夫	腎内科	150千円	補 委 文部科学省科学研究費補助金 基盤C
15	新たな疾患概念「腎障害におけるRASを介した腎・肺関連」の確立	湯澤 由紀夫	腎内科	150千円	補 委 文部科学省科学研究費補助金 基盤C
16	CKD患者における高感度トロポニンT、NTproBNP測定の定義	長谷川 みどり	腎内科	100千円	補 委 財団法人 愛知腎臓財団
17	ヒト糖鎖不全IgA持続投与によるIgA腎症動物実験モデルの作成試み	山本 義浩	腎内科	100千円	補 委 財団法人 愛知腎臓財団
18	一急性期の腎肺関連一急性肺損傷(Acute lung injury: ALI)／急性呼吸促迫症候群(Acute respiratory distress syndrome: ARDS)に急性腎障害(Acute kidney injury: AKI)がおよぼす影響の後ろ向き研究	林 宏樹	腎内科	200千円	補 委 財団法人 愛知腎臓財団
19	腹膜透析療法が及ぼす腹膜内マクロファージビタミンD受容体の発現調節に関する臨床研究	杉山 和寛	腎内科	100千円	補 委 財団法人 愛知腎臓財団
20	糖尿病戦略研究課題3(J-DOIT3)	伊藤 光泰	内分泌代謝内科	2,280千円	補 委 厚生労働省科学研究費補助金 財団法人 国際協力医学研究振興財団
21	早期糖尿病の進展抑制に関する無作為化比較臨床試験(JEDIS)	伊藤 光泰	内分泌代謝内科	100千円	補 委 日本糖尿病進展抑制研究会
22	免疫性神経疾患に関する調査研究	武藤 多津郎	脳神経内科学	500千円	補 委 厚生労働省特定疾患対策研究事業
23	スモンに関する調査研究	武藤 多津郎	脳神経内科学	1,200千円	補 委 厚生労働省特定疾患対策研究事業
24	神経疾患でのミクログリアの病態発現に果たす役割の解明と診断治療への応用	武藤 多津郎	脳神経内科学	1,800千円	補 委 文部科学省科学研究補助金 基盤研究(C)
25	精神神経筋疾患の病態解明と次世代型診断・治療・予防法開発に向けた研究拠点形成	武藤 多津郎	脳神経内科学	2,000千円	補 委 戦略的研究基盤形成支援事業

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
26	統合失調症の病識と長期予後に関する研究	岩田 仲生	精神科	1,000千円	補 委	文部科学省 科学研究費補助金
27	全ゲノム領域を対象とした関連解析	岩田 仲生	精神科	7,500千円	補 委	独立行政法人 科学技術振興機構
28	抗精神病薬の多剤大量投与の安全で効果的な是正に関する臨床研究	岩田 仲生	精神科	17,000千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
29	精神療法の有効性の確立と普及に関する研究	岩田 仲生	精神科	1,000千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
30	統合失調症の多次元生物学的診断法と新たな治療薬の開発をめざした病態解明研究	岩田 仲生	精神科	1,500千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
31	自殺対策のための複合的介入法の開発に関する研究	岩田 仲生	精神科	200千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
32	精神疾患の生物学的病態解明研究 ー最新の神経科学・分子遺伝学との融合ー	岩田 仲生	精神科	2,000千円	補 委	厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
33	精神・神経疾患のエピゲノム解析に関する開発的研究	岩田 仲生	精神科	1,200千円	補 委	厚生労働省 精神・神経疾患研究開発費
34	ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除、およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関する基礎的臨床的研究	吉川 哲史	小児科	2,000千円	補 委	厚生労働省
35	臓器移植患者の予後およびQOLの向上のための真菌ウイルス感染症の予防・診断・治療に関する研究	吉川 哲史	小児科	4,500千円	補 委	厚生労働省
36	成人感染が問題となりつつある小児感染症への対応に関する研究	吉川 哲史	小児科	3,000千円	補 委	厚生労働省
37	成育医療における難治性ウイルス感染症に対する予防・診断・治療法の開発と臨床応用	吉川 哲史	小児科	4,000千円	補 委	成育医療研究開発費
38	全新生児を対象とした先天性サイトメガロウイルス(CMV)感染スクリーニング体制の構築に向けたパイロット調査と感染児臨床像の解析エビデンスに基づく治療指針の基盤策定	吉川 哲史	小児科	1,500千円	補 委	厚生労働省

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
39	急性脳炎・脳症のグルタミン酸受容体自己免疫病態の解明・早期診断・治療法確立に関する臨床研究	吉川哲史	小児科	1,100千円	補 委	厚生労働省
40	初感染ならびに再活性化時HHV-6脳炎の病態解明	吉川哲史	小児科	1,300千円	補 委	文部科学省
41	急性脳炎・脳症の病態解明およびそれに基づく治療法・予防方法の確立に関する研究	吉川哲史	小児科	1,000千円	補 委	文部科学省
42	造血幹細胞移植児におけるロタウイルス抗原血症の解析	菅田 健	小児科	1,200千円	補 委	文部科学省
43	ぜん息キャンプ・水泳訓練教室・スケート教室の効果的な実践及び改善のための評価手法に関する研究	柘植郁哉	小児科	1,500千円	補 委	独立行政法人環境再生保全機構予防事業
44	ぜん息キャンプ・水泳訓練教室・スケート教室の効果的な実践及び改善のための評価手法に関する研究	近藤康人	小児科	1,500千円	補 委	独立行政法人環境再生保全機構予防事業
45	消化器癌に対するロボット手術の手術手技および治療成績に関する研究	宇山 一朗	上部消化管外科	842,330円	補 委	独立行政法人国立がん研究センター
46	悪性神経膠腫に対するtemozolomide化学療法の増感法開発のための基礎研究	廣瀬 雄一	脳神経外科	4,810千円	補 委	文部科学省 科学研究費
47	精神神経筋疾患の病態解明と次世代型診断・治療・予防法開発に向けた研究拠点の形成	廣瀬 雄一	脳神経外科	2,000千円	補 委	文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
48	悪性グリオーマの化学療法剤temozolomideに対する耐性獲得機序の解明と薬剤感受性増強法の開発	廣瀬 雄一	脳神経外科	700千円	補 委	藤田学園 研究助成費
49	顔面神経核の逆行性変性阻止への末梢性、中枢性グリアの作用と軸索再生機序の解明	長谷川 光広	脳神経外科	1,300千円	補 委	文部科学省 科学研究費
50	顔面神経核の逆行性変性阻止へのマクロファージの関与	長谷川 光広	脳神経外科	500千円	補 委	藤田学園 研究助成費
51	神経膠腫におけるメチオニンPETとGd. 造影相違部の病理学	川瀬 司	脳神経外科	200千円	補 委	藤田学園 研究助成費

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
52	CTから構築された頸椎後縦靭帯骨化症の実物大モデルと、これを用いた新術式の開発	井上 辰志	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
53	テンソルMRIおよび脳血流検査を用いた遷延性意識障害患者の残存機能の評価	山口 幸子	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
54	脳動脈瘤クリッピング術をテーマとしたシミュレーション教育コースの開発	小田 淳平	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
55	320列面検出器CTの心電同期再構成による破裂・未破裂脳動脈瘤拍動の検出と検討	早川 基治	脳神経外科	200千円	補 委	藤田学園 研究助成費
56	脊椎変性疾患手術における合併症に関わる因子の検討と低侵襲手術法との比較	久野 茂彦	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
57	頭蓋底脳腫瘍における320列面検出器CTによる術前三次元画像の有用性について	吉田 耕一郎	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
58	Cervical hybrid cage の骨癒合性に関する臨床研究	垣内 孝史	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
59	脳出血・脳室内出血に対する神経内視鏡手術の技術開発とその有用性の評価	渡部 剛也	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
60	脳虚血超急性期の体温変化の検討	小栗 大吉	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
61	くも膜下出血後の脳血管攣縮期における連続心拍出量測定装置を用いた循環管理法の検討	前田 晋吾	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
62	ICG Video-angiography flow dynamics 術中解析「FLOW800」の臨床的有用性の検討	我那覇 司	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
63	脳動脈瘤マルチクリッピング法による完全ネック閉塞 (ICG Video-angiography flow dynamics 術中解析「FLOW800」を用いての解析)	石原 興平	脳神経外科	150千円	補 委	藤田学園 研究助成費
64	低位直腸がん手術における肛門温存療法の開発に関する研究	前田耕太郎	下部消化管外科	1,200千円	補 委	国立がん研究センター

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
65	進行性大腸がんに対する低侵襲製治療法の確立に関する研究	前田耕太郎	下部消化管外科	500千円	補 委 厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金
66	肺癌組織の遺伝子発現解析とそれに基づく抗体治療法の研究	服部良信	呼吸器外科	600千円	補 委 藤田保健衛生大学 教員研究助成費
67	胸部疾患に対する手術支援ロボットda Vinciサージカルシステムの有用性に関する検討	須田 隆	呼吸器外科	400千円	補 委 藤田保健衛生大学 教員研究助成費
68	金属アレルギーの革新的診断・予防・治療法の開発研究	松永 佳世子	皮膚科	1,500千円	補 委 厚生労働省 科学研究費
69	国際協調を重視した化粧品・医薬部外品における安全性試験法の再評価に関する研究	松永 佳世子	皮膚科	1,500千円	補 委 厚生労働省 科学研究費
70	アレルギー疾患に対する In vitro 検査法の開発に関する研究	松永 佳世子	皮膚科	700千円	補 委 藤田学園教員助成費
71	網羅的遺伝子解析による接触皮膚炎の診断バイオマーカー探索と診断技術の確立	矢上晶子	皮膚科	1,900千円	補 委 藤田学園教員助成費
72	交差反応に基づく花粉-食物アレルギー症候群の抗原解析	矢上晶子	皮膚科	250千円	補 委 藤田学園教員助成費
73	色素性皮膚疾患ならびに表在性皮膚腫瘍病変における非侵襲的画像診断の確立	秋田浩孝	皮膚科	250千円	補 委 藤田学園教員助成費
74	進行期皮膚悪性腫瘍の研究	有馬豪	皮膚科	200千円	補 委 藤田学園教員助成費
75	臓器移植の社会的基盤に関する研究	星長清隆	泌尿器科	1,000千円	補 委 厚生労働省 科学研究費
76	腎細胞特異抗原に対し単離した完全ヒト型抗体の機能解析と治療効果の研究	白木良一	泌尿器科	1,000千円	補 委 文部科学省 科学研究費
77	心停止ドナーからの献腎移植適応に関する研究	早川邦弘	泌尿器科	600千円	補 委 文部科学省 科学研究費

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
78	脳死並びに心停止ドナーにおけるマージナルドナーの有効利用に関する研究	杉谷 篤	泌尿器科	500千円	補 委 厚生労働省 科学研究費
79	臓器移植の成績向上をめざした臨床データ解析を目的とした症例登録と追跡制度の確立並びにドナー及びレシピエントの安全性確保とQOL向上に関する研究	杉谷 篤	泌尿器科	300千円	補 委 厚生労働省 科学研究費
80	妊娠合併症に対する次世代型バイオマーカーの開発	宇田川康博	産科・婦人科	2,000千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
81	子宮頸部扁平上皮癌のプラチナ製剤の感受性に関する遺伝子解析	宇田川康博	産科・婦人科	700千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
82	経膈超音波断層像による妊娠末期頸管腺領域像と、Real-time PCR法による頸管熟化に関するmRNA発現と顆粒球エラスターゼとの関連、およびそれを用いた分娩進行と臨床的予後予測	塚田和彦	産科・婦人科	200千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
83	妊娠高血圧症候群の発症前診断に関する検討	西澤春紀	産科・婦人科	400千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
84	アロマトラーゼノックアウトマウスを用いたメタボリックシンドローム関連遺伝子の検討	西尾永司	産科・婦人科	200千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
85	子宮頸部腺癌細胞株におけるERCC1の発現とシスプラチンの感受性に関する基礎的検討	加藤利奈	産科・婦人科	150千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
86	妊娠高血圧症候群および子宮内胎児発育遅延の遺伝子発現プロファイルの解析	松岡美杉	産科・婦人科	150千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
87	アネキシンA5遺伝子多型と進行流産の関連	宮村浩徳	産科・婦人科	150千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
88	卵巣明細胞腺癌におけるPodoplaninの発現と細胞増殖および血小板凝集能との関連	大江収子	産科・婦人科	150千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
89	脳内のアロマトラーゼの欠落が不定愁訴に関する	宮田雅子	産科・婦人科	150千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団
90	妊娠高血圧症候群での母体腎血流評価と頸動脈評価・胎盤血流評価	岡本治美	産科・婦人科	150千円	補 委 日本私学学校振興 共済事業団

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
91	本邦における原発性腹膜癌に関する多施設共同研究	小宮山慎一	産科・婦人科	2,300千円	補 委	文部科学省科学研究費
92	随意運動介助型電気刺激を用いた摂食・嚥下障害患者の嚥下動作再建法	加賀谷斉	リハビリテーション科	2,500千円	補 委	文部科学省科学研究費
93	修正型電気けいれん療法における麻酔法の検討	竹田 清	麻酔・周術期管理 医学	700千円	補 委	藤田学園教員研究 助成費
94	全胚培養法を応用した口蓋裂発生における各種揮発性麻酔薬の作用機序の解析	山田守正	麻酔・周術期管理 医学	250千円	補 委	藤田学園教員研究 助成費
95	手術侵襲とストレスについて	大原義隆	麻酔・周術期管理 医学	200千円	補 委	藤田学園教員研究 助成費
96	術前の不安度と術後鎮痛薬必要量の検討	木村直暁	麻酔・周術期管理 医学	150千円	補 委	藤田学園教員研究 助成費
97	急性肺障害における血管内皮前駆細胞の動態解析:自家移植による再生治療の試み	武山直志	医学部	900千円	補 委	日本学術振興会 科学研究費補助金

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Eur Heart J Vol. 31(12):1470-1476, 2010	The fate of incomplete stent apposition with drug-eluting stents: an optical coherence tomography-based natural history study.	尾崎 行男	循環器内科
2	Int J Cardiol Vol. 145(2): 333-334, 2010	Angiotensin converting enzyme 2 gene expression increased compensatory for left ventricular remodeling in patients with endstage heart failure.	大槻 眞嗣	循環器内科
3	Atherosclerosis Vol. 210(1): 220-225, 2010	Pentraxin 3 in unstable angina and non-ST-segment elevation myocardial infarction.	松井 茂	循環器内科
4	Circ J Vol. 74(6): 1165-1174,2010	Diabetes mellitus is a major negative determinant of coronary plaque regression during statin therapy in patients with acute coronary syndrome—serial intravascular ultrasound observations from the Japan Assessment of Pitavastatin and Atorvastatin in Acute Coronary Syndrome Trial (the JAPAN-ACS Trial).	尾崎 行男	循環器内科
5	Circ J Vol. 74(9): 1906-1915, 2010	V-shaped trough in autonomic activity is a possible precursor of life-threatening cardiac events.	渡邊 英一	循環器内科
6	Heart Vessels Vol. 25(4): 306-312, 2010	Cardio-renal interaction: impact of renal function and anemia on the outcome of chronic heart failure.	宮城島 賢二	循環器内科
7	JACC Cardiovasc Imaging Vol. 3(7): 691-698, 2010	Serial coronary CT angiography - verified changes in plaque characteristics as an end point: evaluation of effect of statin intervention.	皿井 正義	循環器内科
8	Europace Vol. 13(4):473-479,2010	Randomized trial of angiotensin II-receptor blocker vs. dihydropyridine calcium channel blocker in the treatment of paroxysmal atrial fibrillation with hypertension(J-RHYTHM II study).	渡邊 英一	循環器内科
9	Heart Vessels Vol.26(4):363-369,2010	Prediction of the no-reflow phenomenon during percutaneous coronary intervention using coronary computed tomography angiography.	針谷 浩人	循環器内科
10	EuroIntervention Vol. 6(3): 400-406, 2010	A quantitative coronary angiography-matched comparison between a prospective randomised multicentre cutting balloon angioplasty and bare metal stent trial (REDUCE III) and the Rapamycin-Eluting Stent Evaluation At Rotterdam Cardiology Hospital (RESEARCH) study.	尾崎 行男	循環器内科
11	Atherosclerosis Vol. 212(1): 237-242, 2010	Correlation between circulating adiponectin levels and coronary plaque regression during aggressive lipid-lowering therapy in patients with acute coronary syndrome: subgroup analysis of JAPAN-ACS study.	尾崎 行男	循環器内科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
12	J Atheroscler Thromb Vol. 17(10): 1096-1107, 2010	More intensive lipid lowering is associated with regression of coronary atherosclerosis in diabetic patients with acute coronary syndrome--sub-analysis of JAPAN-ACS study.	尾崎 行男	循環器内科
13	Coron Artery Dis Vol. 21(5): 298-303, 2010	Do drug elution components increase the risk of fracture of sirolimus-eluting stents?	河合 朋子	循環器内科
14	心臓 Vol. 42(9): 1212-1218, 2010	診断に苦慮した高齢発症ループスによる漿膜炎の1例	河合 秀樹	循環器内科
15	超音波医学 Vol. 37(5): 577-585, 2010	左房拡大を伴う急性冠症候群患者における僧帽弁輪部心房収縮速度波の心事故予測の有用性	尾崎 行男	循環器内科
16	血圧 Vol. 17(4): 338-343, 2010	カンデサルタン8mg/ヒドロクロロチアジド6.25mg配合錠(エカード®配合錠HD)の有用性 -推定食塩摂取量と降圧効果の関連に関する検討-	宮城島 賢二	循環器内科
17	血圧 Vol. 17(8): 704-709, 2010	直接的レニン阻害薬アリスキレンの降圧効果と微量アルブミン尿改善効果に関する検討	加藤 靖周	循環器内科
18	Int Heart J Vol. 52(2): 103-106, 2011	Statin treatment for patients with paroxysmal atrial fibrillation.	渡邊 英一	循環器内科
19	Circ Arrhythm Electrophysiol Vol. 4(1):64-72, 2011	Screening for obstructive sleep apnea by cyclic variation of heart rate.	渡邊 英一	循環器内科
20	心電図 Vol. 31(1): 18-24, 2011	ペースメーカー植込み同胞例に認められた新たなLamin A/C変異	佐野 幹	循環器内科
21	NSAIDs不耐症の病態解明と診断治療指針作成に関する研究 平成20~22年度総合研究報告書 :45-51,2011	アスピリン喘息の診断に関する研究	榎原 博樹	呼吸器内科 ・アレルギー科
22	NSAIDs不耐症の病態解明と診断治療指針作成に関する研究 平成22年度総括・分担研究報告書 :21-24,2011	アスピリン喘息の気道過敏性:Adenosine 5'-monophosphate (AMP)吸入の有用性	榎原 博樹	呼吸器内科 ・アレルギー科
23	睡眠医療における医療機関連携ガイドラインの有効性検証に関する研究 平成20年度~平成22年度総括研究報告書 :67~72,2011	睡眠時無呼吸症候群関連ガイドラインの検証	榎原 博樹	呼吸器内科 ・アレルギー科
24	肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び大紫胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明 平成22年度研究報告書 :95-103,2011	持続陽圧呼吸療法(CPAP)を実施中の肥満した閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)に対する防風通聖散の効果	榎原 博樹	呼吸器内科 ・アレルギー科
25	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 Vol. 20(2):152-155,2010	慢性閉塞肺疾患、間質性肺炎、気管支喘息患者の健康行動に対する自己効力感の比較	榎原 博樹	呼吸器内科 ・アレルギー科
26	Circ Arrhythm Electrophysiol Vol.4:64-72,2011	Screening for Obstructive Sleep Apnea by Cyclic Variation of Heart Rate	榎原 博樹	呼吸器内科 ・アレルギー科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
27	World Journal of Gastroenterology Vol. 16(38):4809-4816,2010	A new index for non-invasive assessment of liver fibrosis	Yoshioka K	肝胆膵内科
28	Cancer Science Vol. 101(5):1309-1313,2010	Clinicopathologic correlations of diffuse large B-cell lymphoma in rheumatoid arthritis patients treated with methotrexate	Okamoto M	血液内科
29	Hematological Oncology Vol. 28(2):68-74,2010	Multicentre phase II study of CycloBEAP plus rituximab in patients with diffuse large B-cell lymphoma	Okamoto M	血液内科
30	Cancer Science Vol. 101(6):1480-1486,2010	Central nervous system involvement in intravascular large B-cell lymphoma : A retrospective analysis of 109 patients	Okamoto M	血液内科
31	Ann Hematol Vol. 90(2):185-192,2010	A study on nm23-H1 expression in diffuse large B-cell lymphoma that was treated with CycloBEAP plus rituximab therapy	Okamoto M	血液内科
32	Blood Vol. 116(24):5119-5125,2010	Hepatic toxicity and prognosis in hepatitis C virus-infected patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with rituximab-containing chemotherapy regimens:a Japanese multicenter analysis	Okamoto M	血液内科
33	Int J Hematol Vol. 92:713-724,2010	Phase II study of ABVd therapy for newly diagnosed clinical stage II-IVHodgkin lymphoma:Japan Clinical Oncology Group study (JCOG 9305)	Okamoto M	血液内科
34	Blood Vol. 115(19):3869-3878,2010	Therapy of relapsed leukemia after allogeneic hematopoietic cell transplantation with T cells specific for minor histocompatibility antigens	Akatsuka Y	血液内科
35	Blood Vol. 115(15):3158-3161,2010	Relapse of leukemia with loss of mismatched HLA resulting from uniparental disomy after haploidentical hematopoietic stem cell transplantation	Akatsuka Y	血液内科
36	PLoS ONE Vol. 5(7):e11901,2010	The Human Cytomegalovirus UL76 Gene Regulates the Level of Expression of the UL77 Gene	Akatsuka Y	血液内科
37	Blood Vol. 116(20):4274-4283,2010	BCOR as a novel fusion partner of retinoic acid receptor alpha in a t(X;17)(p11;q12)variant of acute promyelocytic leukemia	Yamamoto Y	血液内科
38	Blood Vol. 115(23):4664-4670,2010	Impact of highly conserved HLA haplotype on acute graft-versus-host disease	Morishima S	血液内科
39	日本内科学会雑誌 Vol. 99(10):2490-2496,2010	関節炎の鑑別: 診断と治療の進歩・サルコイドーシス	吉田 俊治	リウマチ・感染症内科
40	炎症と免疫 Vol. 19(11):86-91,2011	第30回 リウマチ性多発筋痛症	加藤 賢一	リウマチ・感染症内科
41	臨床と研究 Vol. 87(9):1248-1254,2010	注意すべき合併症 感染症・間質性肺炎	加藤 賢一	リウマチ・感染症内科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
42	Modern Physician Vol. 30(8):1080-1083,2010	C.生物学的製剤 5.新規生物学的製剤	西野 譲	リウマチ・感染症 内科
43	Therapeutic Apheresis and Dialysis Vol. 14(5):451-456,2010	Evaluation of Blood Purification and Bortezomib Plus Dexamethasone Therapy for the Treatment of Acute Renal Failure Due to Myeloma Cast Nephropathy.	Hasegawa M	腎内科
44	INTERNAL MEDICINE Vol. 49(12):1139-1142,2010	Acute Kidney Injury Presenting a Feature of Leukemic Infiltration during Therapy for Chronic Myelogenous Leukemia.	Yuzawa Y	腎内科
45	The America Physiological Society Vol. 300:F848-F856,2011	Phosphate overload induces podocyte injury via type III Na-dependent phosphate transporter	関口 佐保子	内分泌代謝内科
46	J Bone Miner Metab	High prevalence of hypovitaminosis D in pregnant Japanese women with threatened premature delivery	四馬田 恵	内分泌代謝内科
47	Molecular and Cellular Neuroscience Vol. 45(4):355-362,2010	Anti-GM1 antibodies affect the integrity of lipid rafts.	Ueda A	脳神経内科学
48	Molecular and Cellular Neuroscience Vol. 45(3):226-233,2010	Stimulated neuronal expression of brain-derived neurotrophic factor by Neurotrophin.	Mutoh T	脳神経内科学
49	European Neurology Vol. 65(3):138-143,2011	Neurotrophin levels in cerebrospinal fluid of adult patients with meningitis and encephalitis.	Kizawa M	脳神経内科学
50	Journal of Alzheimer's Disease Vol.20(2):427-439,2010	The Therapeutic Effects of the Herbal Medicine, Juzen-taiho-to, on Amyloid- β Burden in a Mouse Model of Alzheimer's Disease	Mutoh T	脳神経内科学
51	Blood Purif Vol. 32(1):57-62,2011	Reduction of Alzheimer's Disease Amyloid- β in Plasma by Hemodialysis and Its Relation to Cognitive Functions.	Mutoh T	脳神経内科学
52	J Clin Virol Vol. 51(1):12-19,2011	Different characteristics of human herpesvirus 6 encephalitis between primary infection and viral reactivation.	Mutoh T	脳神経内科学
53	神経内科 Vol. 73(1):36-39,2010	悪性リンパ腫と亜急性感覚性ニューロパチー	武藤 多津郎	脳神経内科学
54	神経治療学 Vol. 27(4):562-572,2010	単純ヘルペス脳炎後に広汎な大脳白質病変をきたした1例	島 さゆり	脳神経内科学
55	BIOL PSYCHIATRY Vol. 69:472-478,2011	Genome-Wide Association Study of Schizophrenia in a Japanese Population	池田 匡志	精神科
56	HUMAN PSYCHOPHARMACOLOGY Vol. 25:481-486,2010	Pharmacogenetic study of serotonin 6 receptor gene with antidepressant response in major depressive disorder in the Japanese population	岩田 仲生	精神科
57	Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry Vol. 34:1033-1036,2010	PROKR2 is associated with methamphetamine dependence in the Japanese population	岩田 仲生	精神科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
58	Neuroscience Research Vol. 67:250-255,2010	Serotonin 6 receptor gene and mood disorders: Case-control study and meta-analysis	福生 泰久	精神科
59	Neuroscience Research Vol. 66:340-344,2010	Investigation of clinical factors influencing cognitive function in Japanese schizophrenia	岩田 仲生	精神科
60	Neuropharmacology Vol. 58:452-456,2010	Serotonin 1A receptor gene is associated with Japanese methamphetamine-induced psychosis patients	岩田 仲生	精神科
61	Journal of Affective Disorders Vol. 126:167-173,2010	SIRT1 gene is associated with major depressive disorder in the Japanese population	岩田 仲生	精神科
62	Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry Vol. 34:639-644,2010	Association analysis of GRM2 and HTR2A with methamphetamine-induced psychosis and schizophrenia in the Japanese population	角鹿 智子	精神科
63	Neuropharmacology Vol. 58:1168-1173,2010	Association analysis of SIGMAR1 with major depressive disorder and SSRI response	岩田 仲生	精神科
64	BIOL PSYCHIATRY Vol. 67:263-269,2010	Identification of Novel Candidate Genes for Treatment Response to Risperidone and Susceptibility for Schizophrenia: Integrated Analysis Among Pharmacogenomics, Mouse Expression, and Genetic Case-Control Association Approaches	池田 匡志	精神科
65	Microbiol Immunol 54(8):466-470,2010	Heat denaturation increases the sensitivity of the cytomegalovirus loop-mediated isothermal amplification method	Suzuki R	小児科
66	Microbiol Immunol 54(8):471-474,2010	Detection of DNA of six human herpesviruses in the cerebrospinal fluid of immunocompetent non-herpetic acute limbic encephalitis patients.	Yoshikawa T	小児科
67	J Virol Methods 167(1):103-106,2010	Direct detection of human herpesvirus 6 DNA in serum by variant specific loop-mediated isothermal amplification in hematopoietic stem cell transplant recipients.	Yoshikawa T	小児科
68	J Med Virol. 82(11):1903-1910,2010	Review Part 3: Human herpesvirus-6 in multiple non-neurological diseases.	Yoshikawa T	小児科
69	Clin Exp Rheumatol 28(4):558-560,2010	Hyper IgM syndrome and complement Clq deficiency in an individual with systemic lupus erythematosus-like disease.	Tsuge I	小児科
70	Allergy. 65(10):1266-1273,2010	A convenient and sensitive allergy test: IgE crosslinking-induced luciferase expression in cultured mast cells.	Tsuge I	小児科
71	小児外科 42(12):1259-1264,2010	先天性食道閉鎖症long gap症例に対する胸壁外牽引法とマグネットチューブによる圧挫吻合	小倉 薫	小児外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
72	小児外科 42(12):1270-1274,2010	先天性食道閉鎖症long gap症例に対する術中食道延長法としてのLivaditis法	橋本 俊	小児外科
73	藤田学園医学会誌 34(1):47-49,2010	乳児痔瘻の臨床的特徴に関する検討	富重 博一	小児外科
74	小児外科 43(1):77-81,2011	小児生体肝移植後の免疫抑制療法-Calcineurin inhibitorの使用に関して-	原 普二夫	小児外科
75	手術 65(1): 91-95,2011	手術手技 同時性肝転移を伴う大腸癌に対するda Vinci S ^{HD} Surgical Systemを用いた大腸・肝同時切除術	加藤悠太郎	肝脾外科
76	胆道 24(5):700-70,2010	肝門部胆管癌との鑑別が困難であった原発性硬化性胆管炎の1例	所 隆昌	肝脾外科
77	日本消化器外科学会雑誌 43(11):1141-1145,2010	B型肝炎を背景に肝細胞癌と細胆管細胞癌が同時発生した重複肝癌の1切除例	杉岡 篤	肝脾外科
78	Journal of Hepatobiliary Pancreatic Science 17(4):523-526,2010	Three-dimensional models of arteries constructed using multidetector-row CT images to perform pancreatoduodenectomy safely following dissection of the inferior pancreaticoduodenal artery	Horiguchi A	胆膵外科
79	Journal of Hepatobiliary Pancreatic Science 17(5):688-691,2010	Cholecystectomy using single-incision laparoscopic surgery with a new SILS port	Ito M	胆膵外科
80	Journal of Hepatobiliary Pancreatic Science 17(6):792-797,2010	Surgical design and outcome of duodenum-preserving pancreatic head resection for benign or low grade malignant tumors.	Horiguchi A	胆膵外科
81	消化器外科 33(6):1041-1048,2010	MDCTによる胆管癌・十二指腸乳頭部癌の深達度診断と外科治療	堀口 明彦	胆膵外科
82	藤田学園医学会誌 211-226,2010	各種膵切除術における13Cトリオクタノイン呼気試験を用いた膵外分泌機能の検討	津田 一樹	胆膵外科
83	藤田学園医学会誌 299-312,2010	ヒト抗体ライブラリーから単離された癌特異的抗体を用いた臨床検体での膵癌特異的発現の検討	森垣 暁子	胆膵外科
84	消化器外科 34(1):11-17,2011	新しい手術技術・術式の開発 Robotic Surgery	石田 善敬	上部消化管外科
85	手術 65(1):73-76,2011	da Vinci Surgical Systemを用いた食道癌に対するロボット手術の経験	石田 善敬	上部消化管外科
86	医学のあゆみ 236(7):744-745,2011	“ダヴィンチ” ーロボット手術の最前線	石田 善敬	上部消化管外科
87	外科 73(3):303-306,2011	Ponskyカテーテルを用いた腹腔鏡下空腸瘻造設術で良好な栄養状態・quality of lifeが得られた2例	吉村 文博	上部消化管外科
88	外科治療 104(3):299-306,2011	腹腔鏡下胃全摘後の食道空腸吻合法の比較 ーリニアステイプラーを用いた吻合法を中心にー	吉村 文博	上部消化管外科
89	Skin Cancer 25(1):33-37,2010	左腋窩乳房外Paget病の1例	内海 俊明	乳腺外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
90	European Journal of Surgical Oncology 36(9):925,2010	The consequences of short-time shoulder mobility in breast cancer patients with sentinel lymph node biopsy or axillary clearance	内海 俊明	乳腺外科
91	Cancer Research 70(24):406,2010	The Influence on Upper Limb Function after Sentinel Lymph Node Biopsy or Axillary Lymph Node Dissection	宮島 慎介	乳腺外科
92	THE BREAST 20(1):177,2011	The prognostic significance of Ki-67 expression in patients with early invasive breast cancer	内海 俊明	乳腺外科
93	THE BREAST 20(1):253,2011	The consequences of shoulder mobility in early breast cancer patients with sentinel lymph node biopsy or axillary lymph node dissection	内海 俊明	乳腺外科
94	Journal of Neuro-oncology 98(3): 411-415,2010	Meningioma of the cerebellopontine angle in identical twins: a case report	Hirose Y	脳神経外科
95	Neurosurgical Review 33(3): 349-357,2010	Delayed surgical resections of brain metastases after gamma knife radiosurgery	Hirose Y	脳神経外科
96	脳神経外科速報 20(5): 526-531,2010	Hemifacial spasm に対する脳神経減圧術—基本手技とピットフォール—	長谷川光広	脳神経外科
97	脳神経外科速報 20(11): 1303-1308, 2010	ステント留置したsymptomatic persistent primitive hypoglossal artery stenosis の1例	森谷 茂太	脳神経外科
98	脳神経外科ジャーナル 19(12): 880-886,2010	悪性グリオーマの集学的治療に向けての生物学	廣瀬 雄一	脳神経外科
99	Journal of Spinal Surgery 2(1): 331-334,2010	Butterfly lumbar vertebra causing unilateral nerve root compression necessitating surgical intervention	Kuno S	脳神経外科
100	Neurosurgical Emergency 15(2): 129-134,2011	破裂脳動脈瘤に対するコイル塞栓術後の再出血例の検討	入江 恵子	脳神経外科
101	消化器外科 33(5):914-915,2010	ステント設置後合併症 結腸・直腸狭窄部ステント	前田耕太郎	下部消化管外科
102	胃と腸 45(5):907-914,2010	早期大腸がんの治療 MITAS	前田耕太郎	下部消化管外科
103	癌と化学療法 37(7):1303-1306,2010	大腸癌肝転移に対する肝動注療法の結果	松岡宏	下部消化管外科
104	日本消化器外科学会雑誌 43(9):1002-1006,2010	大腸癌に対するロボット手術導入	勝野秀稔	下部消化管外科
105	手術 64(10):1484-1489,2010	腸管吻合～手縫い吻合について	花井恒一	下部消化管外科
106	臨床外科 65(11):296-304,2010	回盲部切除術	花井恒一	下部消化管外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
107	外科 72(12):1369-1372,2010	肛門脱・直腸脱	前田耕太郎	下部消化管外科
108	癌と化学療法 37(12):2647-2649,2010	化学放射線療法を施行した肛門扁平上皮癌4例の治療経験	佐藤美信	下部消化管外科
109	大腸疾患NOW 23-29,2011	Stage II 大腸癌に対する補助化学療法—臨床試験からみたハイリスク因子	佐藤美信	下部消化管外科
110	胸部外科 63(13):1173-1175,2010	抗リン脂質抗体症候群,全身性エリテマトーデスを合併した僧帽弁膜症に対して弁置換術を行った1例	近藤弘史	心臓血管外科
111	藤田学園医学会雑誌 34(1):1-11,2010	肺血栓塞栓症の病態と診断及び治療法	安藤太三	心臓血管外科
112	最新医学 65(8):1784-1791,2010	慢性肺血栓塞栓症に対する手術治療:適応と成績	安藤太三	心臓血管外科
113	治療学 44(8):874-878,2010	原因疾患の最新の診断と治療 7.慢性肺血栓塞栓症	安藤太三	心臓血管外科
114	血管疾患を診る・治す 127-128,2010	(論点)高齢者の治療はどうするか	安藤太三	心臓血管外科
115	PTM治療マニュアルInternet. GUIDELINE digest 45-1,2	肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断、治療、予防に関するガイドライン (2009年度改訂版)	安藤太三	心臓血管外科
116	Ann Thorac Surg 89(6): 1906-1911, 2010	Accuracy of 64-Slice Multidetector Computed Tomography for Diseased Coronary Artery Graft Detection	Tochii M	心臓血管外科
117	Ann Thorac Cardiovasc Surg 16(6): 451-453, 2010	Iatrogenic Type A aortic dissection after catheter intervention for left subclavian artery	Tochii M	心臓血管外科
118	抗血栓療法ノウハウとピットフォール 135-138,2010	I 章 病態応じた抗血栓療法のノウハウとピットフォール C.周術期管理における抗血栓療法 3)心臓外科手術後	高木 靖	心臓血管外科
119	抗血栓療法ノウハウとピットフォール 167-172,2009	I 章 病態応じた抗血栓療法のノウハウとピットフォール C.周術期管理における抗血栓療法 8)	高木 靖	心臓血管外科
120	むくみの診かた 39-45, 2010	労作時呼吸困難と下肢腫脹を伴う42歳女性	佐藤雅人	心臓血管外科
121	血管診療テキスト(Vascular Lab2010 Vol.7増刊) 7:253-258,2010	血管疾患の診断と治療 肺動脈	佐藤雅人	心臓血管外科
122	Brain Nursing 26(10): 103-105, 2010	フットケアのABC	佐藤雅人	心臓血管外科
123	循環器疾患 最新の治療 2010-2011 135-137,2010	IV冠動脈疾患 16.冠動脈バイパス術後の外来管理	高木 靖	心臓血管外科
124	日本呼吸器外科外科学会誌 24(4):727-732	肺癌に対するロボット支援手術の経験—ダヴィンチロボット支援肺癌手術本邦第1例—	須田 隆	呼吸器外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
125	臨床呼吸生理 42:35-38	間質性肺炎に対する胸腔鏡下肺生検術の検討	栢井祥子	呼吸器外科
126	Japanese Cancer Association, Cancer Science 2010.9.3 online、1-7	Selection and analysis of anti-cancer antibodies for cancer therapy obtained from antibody phage library	Gene Kurosawa	呼吸器外科
127	藤田学園医学会誌学位論文集 2010 2010, 53-71	多数のヒトモノクローン抗体を用いた肺癌組織での癌特異抗原の発現様式の解析	北村由香	呼吸器外科
128	藤田学園医学会誌学位論文集 2010 2010、247-259	原発性肺癌に対する胸腔鏡手術の有用性に関する検討	栢井祥子	呼吸器外科
129	PEPARS No.42:21-27,2010	埋没耳形成術	吉村陽子	形成外科
130	形成外科 53巻(6号): 985-994,2010	長期経験から変形程度に応じて工夫した安全なNuss法手術	井上義一	形成外科
131	形成外科 53巻(11号):1231-1238,2010	顎変形症—唇顎口蓋裂に伴うもの—	奥本隆行	形成外科
132	形成外科 54巻(2号):127-133,2011	手術治療の適応と時期に関する臨床的・クエッションを作成して	奥本隆行	形成外科
133	Journal of Spine Research 1(7):1303-1308,2010	Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire(JOABPEQ): A Validity Study in Patients with Lumbar Disc Herniation and Lumbar Spinal Canal Stenosis	Nakai.S	整形外科
134	Journal of Spine Research 2(2):268-271,2011	The Validity Study of Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) for the Patients with Leg Symptom Associated with Lumbar Disc Herniation	Nakai.S	整形外科
135	JOSKAS 35(2):432-437,2010	超高齢者に対するTKAの意義と問題点	早川和恵	整形外科
136	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 53:190,2010	TKA後のアリクストラ1.5mg製剤の使用経験 変形性関節症、関節リウマチにおける両側、片側TKAの比較	早川和恵	整形外科
137	日本関節病学会誌 29(3):301,2010	術後感染症への対策と治療 感染TKAに対する再置換	早川和恵	整形外科
138	日本関節病学会誌 29(4):515-521,2010	変形性膝関節症に対するPorous Tantalum Tibial Monoblock Componentを使用した人工膝関節置換術の中期成績	早川和恵	整形外科
139	日本骨・関節感染症学会雑誌 24:47-50,2010	抗菌薬含有骨セメントを用いた人工股関節再置換術	森田充浩	整形外科
140	日本整形外科学会雑誌 84(8):S1336,2010	Metal implant debris has an effect on increasing TNF- α production of osteocyte-like cells in vitro	Kanaji.A	整形外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
141	関節外科 29(9):995-999,2010	【変形性膝関節症の治療戦略】【診断】 軟骨代謝マーカー (解説/特集)	森田充浩	整形外科
142	Journal of Orthopaedic Science 15(5):626-631,2010	Multiinstitutional epidemiological study regarding osteoarthritis of the hip in Japan	Yamada.H	整形外科
143	Hip Joint 36:181-184,2010	前側方進入によるmini-incision THAと 従来型THAの術後短期成績の比較 mini-incision THAと従来型THAの prospective randomized control study	金治有彦	整形外科
144	日本人工関節学会誌 40:194-195,2010	高位脱臼性股関節症に対するSmith- Petersen進入による人工股関節置換術 の中・長期成績	金治有彦	整形外科
145	今日の整形外科治療指針 6:487-488,2010	尺骨突き上げ症候群	鈴木克侍	整形外科
146	関節外科 29(8):950-956,2010	【手指腱損傷の治療up to date】II.伸 筋腱 手背部の外傷性伸筋腱損傷の 治療	鈴木克侍	整形外科
147	整形外科 61(4):335-337,2010	腎原発骨外性骨肉腫の1例	林 卓馬	整形外科
148	J.Cancer Res Clin Oncol 137:423-433,2010	Characterization of human multicentric osteosarcoma using newly established cells derived from multicentric osteosarcoma	Yamamoto.Y	整形外科
149	Allergol Int 2011 Mar;60(1):97-101	Sensitization profiles of a case of pollen-food allergy syndrome.	佐野晶代	皮膚科
150	日本皮膚科学会誌 120巻9号 Page1893-1900(2010.08)	お好み焼き粉に繁殖したダニによる即時型アレ ルギーの2例 Inhibition immunoblot法による原 因抗原の検討と粉の種類によるダニ数およびダ ニ抗原増加の検討	稲葉弥寿子	皮膚科
151	The Journal of Urology Vol.183 2001-2007	Urinary neutrophil-gelatinase associated lipocalin is a potential noninvasive marker for renal scarring in patients with vesicoureteral reflux	Ichino M	泌尿器科
152	Cell Transplantation Vol.19,pp 723-729	Serum tissue inhibitor of metalloproteinases 1 (TIMP-1) predicts organ recovery from delayed graft function after kidney transplantation from donors after cardiac	Kusaka M	泌尿器科
153	日本臨床 68巻12号(2010-12)p.2283-2290	特集 臓器移植 IV.臓器移植の現状と将来 展望 臓器移植	杉谷篤	泌尿器科
154	American Journal of Reproductive Immunology 64(1) : 68-76	Genetic Variation in the Indoleamine 2,3- Dioxygenase Gene in Pre-eclampsia	H.Nishizawa	産・婦人科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
155	The Journal of Minimally Invasive Gynecology 17(4) : 534-537	Bilateral Interruption of Mid-Fallopian Tubes and Ovarian Anomalies Including Ectopic Ovary and Cystic Teratoma, a Previously Unreported Combination	S.Nishiyama	産・婦人科
156	International Journal of Gynecological Pathologists 29(5) : 405-410	Expression of podoplanin in epithelial ovarian carcinomas and its potential as a marker for clear cell adenocarcinoma	S. Oe	産・婦人科
157	Diagnostic Cytopathology 38(9) : 652-656	A Cell-Block Preparation Using Glucomannan Extracted From Amorphophallus Konjac	C.Kaneko	産・婦人科
158	Jpn J Ophthalmol. 2010 Nov;54(6):626-8.	Congenital Toxoplasmosis Mimicking Microcephaly-Lymphedema-Chorioretinal Dysplasia	Ozeki.Y	眼科
159	Med Mol Morphol. 2010 Sep;43(3):139-44.	Basic study of retinal stem/progenitor cell separation from mouse iris tissue	Yamamoto.N	眼科
160	In Vitro Cell Dev Biol Anim. 2010 Oct;46(9):774-80.	Cultured human corneal epithelial stem/progenitor cells derived from the corneal limbus	Yamamoto.N	眼科
161	臨床眼科 64巻8号1303-1306	単一裂孔と多発裂孔による網膜剥離眼(有水晶体眼)の特性	田中秀典	眼科
162	臨床眼科 64巻7号1187-1192	クロロプロマジン網膜症が疑われた1例	中村彰	眼科
163	J Jpn Soc Head Neck Surg 20(2): 185-190,2010	A Case Report of Ectopic Cervical Thymoma : A New Approach for a Preoperative Diagnosis	H. Kato	耳鼻咽喉科
164	日気食学会会報 61(5): 458-466,2010	320列高速多列面検出器CTによる小児気管支異物の診断	吉岡哲志	耳鼻咽喉科
165	耳鼻と臨床 56(5): 212-220,2010	甲状軟骨形成術 I 型におけるゴアテックスの挿入方法の工夫	岩田義弘	耳鼻咽喉科
166	耳鼻と臨床 56(補2): 195-201,2010	高齢者に対する頭部等尺性収縮(chin push-pull maneuver)手技による嚥下訓練 - 自己実施訓練の効果 -	岩田義弘	耳鼻咽喉科
167	頭頸部癌 36(3): 339-343,2010	Human Papillomavirus (HPV)関連前壁・側壁型中咽頭扁平上皮癌の分子生物学的検討	加藤久幸	耳鼻咽喉科
168	小児耳鼻咽喉科 31(3): 293-298,2010	口蓋裂術後児における構音時の鼻気流漏出に関する新しい評価法	長島圭士郎	耳鼻咽喉科
169	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 47巻5号	嚥下造影検査後の早期呼吸器合併症についての検討	田中貴志	リハビリテーション科
170	全日本鍼灸学会雑誌 2010年第60巻2号,190-196,10-Aug-2010	PlanVision®による慢性疼痛患者に対する鍼治療の効果判定について	有働 幸紘	麻酔・周術期管理医学
171	日本急性血液浄化学会雑誌 1(1), 17~27, 2010	メディエータ制御における血液浄化法の意義と方法	西田修	麻酔・侵襲制御医学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
172	障害者歯科 32巻1号 39～43項	四肢切断例のADL自立に向けたチームアプローチ	藤井 航	歯科口腔外科
173	日本婦人科病理学 1(1):15-17	卵巣Endometrioid borderline tumor (Endometrioid adenofibroma of borderline malignancy)の1例	浦野 誠	病理診断科
174	日本救急医学会雑誌 17; 327-42	救急集中治療における重症度評価と臓器機能障害度指標	武山直志	救急科
175	医学検査 59(10):1171-1175	Capnocytophaga属菌による敗血症の2例	中山麻美	臨床検査部
176	医療と検査機器・試薬 33(5):633-637	マイクロチップを利用した高感度CRP測定試薬「バナリストエースhsCRP」の基礎的検討	藤田孝	臨床検査部
177	医療と検査機器・試薬 33(5):629-632	ラテックス免疫比濁法によるヒト心筋型脂肪酸結合蛋白(H-FABP)測定試薬の基礎的検討	藤田孝	臨床検査部

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長 星長 清隆		
管理担当者氏名	事務局長 (人事部長) 総務部長 医療事務部長代理 外来医事課長代理	山田 一俊 伊藤 稔 濱野 和治 後藤 靖司	安全管理室長 感染対策室長 薬剤部長
			杉岡 篤 吉田 俊治 山田 成樹

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書		総務課 外来医事課 入院医事課 各診療科 フィルム中央管理室 診療録管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・外来カルテ・入院カルテ共に電子カルテとしています。 ・保存期間は、外来カルテは10年、入院カルテは30年としています。 ・X線写真は、中央管理しています。なお一部は各診療科毎に保管しています。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者を明らかにする帳簿	人事課	/
	高度医療の提供の実績	外来医事課 入院医事課	
	高度医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	外来医事課 入院医事課	
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	外来医事課 入院医事課 薬剤部	
規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理室	/
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理室	
	当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保	安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室	/
	院内感染のための委員会の開催状況	感染対策室	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	感染対策室	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME管理室	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME管理室	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME管理室		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME管理室		

(注) 「診療に関する諸記録」欄にはこの記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務局長	山田 一俊
閲覧担当者氏名	薬剤部長 人事部長 総務部長 医療事務部長代理 外来医事課長代理	山田 成樹 山田 一俊 伊藤 稔 濱野 和治 後藤 靖司
閲覧の求めに応じる場所		

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	64.4%	算定期間	平成22年4月1日～平成23年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		21,133人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,068人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		5,324人
	D：初診の患者の数		49,400人

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・指針の主な内容	
医療安全に関する基本的な考え方、組織体制、医療安全に係る各種委員会について、安全管理専任者の設置、医療事故発生時の対応における基本的な考え方など。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容	
医療事故の予防策の検討及び推進、対応方法、情報交換。 患者相談窓口からの相談・苦情についての審議。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
・研修の主な内容	
・第1回 安全管理研修「医療の一環としての院内医療メデイエーション」 H22.6.18 ・第2回 安全管理研修「事故防止のための失敗学」 H22.12.14	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
・その他の改善のための方策の主な内容	
周術期肺血栓塞栓症予防ワーキンググループ立ち上げ 転倒・転落防止パンフレットの作成 医療事故防止キャンペーンの実施	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(2 名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(5 名) <input type="checkbox"/> 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
・所属職員: 専任(2)名 兼任(1)名	
・活動の主な内容	
院内診療各部門、各種委員会に対して医療安全に関する要求・提言や職員の安全管理研修	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
<p>・指針の主な内容</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 院内感染に対する基本的な考え方 2. 院内感染防止対策の組織に関する基本事項 3. 院内感染防止対策のための研修に関する基本方針 4. 感染症発生状況の報告に関する基本方針 </td> <td style="vertical-align: top;"> 5. 院内感染発生時の対応に関する基本指針 6. 院内感染防止対策指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の院内感染対策推進のために必要な基本方針 </td> </tr> </table>		1. 院内感染に対する基本的な考え方 2. 院内感染防止対策の組織に関する基本事項 3. 院内感染防止対策のための研修に関する基本方針 4. 感染症発生状況の報告に関する基本方針	5. 院内感染発生時の対応に関する基本指針 6. 院内感染防止対策指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の院内感染対策推進のために必要な基本方針
1. 院内感染に対する基本的な考え方 2. 院内感染防止対策の組織に関する基本事項 3. 院内感染防止対策のための研修に関する基本方針 4. 感染症発生状況の報告に関する基本方針	5. 院内感染発生時の対応に関する基本指針 6. 院内感染防止対策指針の閲覧に関する基本方針 7. その他の院内感染対策推進のために必要な基本方針		
② 院内感染のための委員会の開催状況	年 12 回		
<p>・活動の主な内容</p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>・感染防止対策委員会 月1回(年12回)</p> <p>以下に掲げる事項を審議する</p> ①院内感染の調査、研究、予防対策などの立案に関すること ②清潔区域、無菌的医療材料のチェック、清潔状態の保持に関すること ③感染症患者の取り扱いに関すること ④消毒剤の使用基準などに関すること ⑤院内感染防止のための職員教育、指導に関すること ⑥院内感染防止のための情報収集と必要部門への伝達などに関すること ⑦その他院内感染防止にかんすること <p>・感染防止対策担当者連絡会 隔月1回(年6回)</p> ①ICT委員会の決定内容を受け、現場への定着を推進する。 ②現場からの報告やICT委員による巡視などから問題点を抽出し、改善策を検討する ③感染防止対策の知識・技術の普及及び職員の教育指導をする </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>・感染防止対策実務小委員会 (Infection Control Team) 月2回(年23回(8月のみ1回))</p> <p>以下に掲げる項目を実施する</p> ①院内サーベイランスの企画、指導及び評価 ②定期的に病棟内で感染対策担当医及び同担当看護師と感染状況などについて検討し、病棟内を適宜回診する ③必要に応じ、院内感染原因の疫学的調査及び分析 ④細菌検出情報レポートの作成及び活用 ⑤院内感染に関する職員への教育・啓発 ⑥院内感染防止対策マニュアルの作成、活用及び改訂 ⑦必要に応じ、抗菌薬、消毒薬などの勧告または指定 ⑧その他、院内感染対策に関する事項 </td> </tr> </table>		<p>・感染防止対策委員会 月1回(年12回)</p> <p>以下に掲げる事項を審議する</p> ①院内感染の調査、研究、予防対策などの立案に関すること ②清潔区域、無菌的医療材料のチェック、清潔状態の保持に関すること ③感染症患者の取り扱いに関すること ④消毒剤の使用基準などに関すること ⑤院内感染防止のための職員教育、指導に関すること ⑥院内感染防止のための情報収集と必要部門への伝達などに関すること ⑦その他院内感染防止にかんすること <p>・感染防止対策担当者連絡会 隔月1回(年6回)</p> ①ICT委員会の決定内容を受け、現場への定着を推進する。 ②現場からの報告やICT委員による巡視などから問題点を抽出し、改善策を検討する ③感染防止対策の知識・技術の普及及び職員の教育指導をする	<p>・感染防止対策実務小委員会 (Infection Control Team) 月2回(年23回(8月のみ1回))</p> <p>以下に掲げる項目を実施する</p> ①院内サーベイランスの企画、指導及び評価 ②定期的に病棟内で感染対策担当医及び同担当看護師と感染状況などについて検討し、病棟内を適宜回診する ③必要に応じ、院内感染原因の疫学的調査及び分析 ④細菌検出情報レポートの作成及び活用 ⑤院内感染に関する職員への教育・啓発 ⑥院内感染防止対策マニュアルの作成、活用及び改訂 ⑦必要に応じ、抗菌薬、消毒薬などの勧告または指定 ⑧その他、院内感染対策に関する事項
<p>・感染防止対策委員会 月1回(年12回)</p> <p>以下に掲げる事項を審議する</p> ①院内感染の調査、研究、予防対策などの立案に関すること ②清潔区域、無菌的医療材料のチェック、清潔状態の保持に関すること ③感染症患者の取り扱いに関すること ④消毒剤の使用基準などに関すること ⑤院内感染防止のための職員教育、指導に関すること ⑥院内感染防止のための情報収集と必要部門への伝達などに関すること ⑦その他院内感染防止にかんすること <p>・感染防止対策担当者連絡会 隔月1回(年6回)</p> ①ICT委員会の決定内容を受け、現場への定着を推進する。 ②現場からの報告やICT委員による巡視などから問題点を抽出し、改善策を検討する ③感染防止対策の知識・技術の普及及び職員の教育指導をする	<p>・感染防止対策実務小委員会 (Infection Control Team) 月2回(年23回(8月のみ1回))</p> <p>以下に掲げる項目を実施する</p> ①院内サーベイランスの企画、指導及び評価 ②定期的に病棟内で感染対策担当医及び同担当看護師と感染状況などについて検討し、病棟内を適宜回診する ③必要に応じ、院内感染原因の疫学的調査及び分析 ④細菌検出情報レポートの作成及び活用 ⑤院内感染に関する職員への教育・啓発 ⑥院内感染防止対策マニュアルの作成、活用及び改訂 ⑦必要に応じ、抗菌薬、消毒薬などの勧告または指定 ⑧その他、院内感染対策に関する事項		
③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	年 2 回		
<p>・研修の主な内容</p> <p>研修の主な内容: 院内感染に関する職員への啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「多剤耐性アシネトバクターの施設内感染と対策 ー自施設での経験からー」 福岡大学病院 感染制御部 部長 高田 徹 先生 ・テーマ「アウトブレイクに学ぶ感染対策」 愛知県厚生連 医療事業部 医務課 犬塚 和久 先生 			
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況			
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>※臨床微生物検査室より以下の報告をICT委員会が受ける体制を整えている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MRSAの各病棟における週間、月刊分離状況→診療連絡会にて各部門が情報共有する ・VRE、MDRP、O-157を始めとする感染症法第1～5類に属する病原体が検出された際には、直ちに当該病棟およびICT委員会へ報告する。院内感染対策専任者は、適切な感染対策指導を行うと共に、感染症法に基づき届け出が速やかに行われるように指導する。 ・週1回多剤耐性菌及びクロストリジウム・デフィシルの検出された部署の一覧表をICT委員会に提出し、報告する。 ・同一病棟、同一診療科あるいは病院全体で、同一菌種が多発的に検出され、同一病原体による感染症のアウトブレイクが疑われた場合には、直ちにICT委員会へ報告する。 <p>※NICU、CCUにてBSIサーベイランス、胆膵外科、皮膚科、泌尿器科、整形外科、心臓血管外科、呼吸器外科、下部消化管外科にてSSIサーベイランス、NCUにてVAPサーベイランスを行い、感染症の発生状況を把握している。</p> <p>※厚生労働省「院内感染対策サーベイランス」全入院患者部門、手術部位感染部門、集中治療部門に参加し、感染症発生状況を把握している。</p> <p>※年2回 当院における臨床分離菌株薬剤感受性率をマニュアルに挿入している。</p>			

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 ・活動の主な内容	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・麻薬の安全管理 (H22.6.14 研修医対象) ・麻薬勉強会 (H22.7.27 NICU.GCUスタッフ対象) ・安全な麻薬の取扱い(H22.7.30 全職員対象) ・なくそう麻薬のヒヤリハット(H22.11.26 医療従事者対象) 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 ・手順書の作成 ・業務の主な内容	年 1 回 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
チェックリストを用い、薬剤部内や病棟を調査	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 ・医薬品に係る情報の収集の整備 ・その他の改善のための方策の主な内容	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品、医療機器等の安全性情報は、電子媒体にて配信し、さらに紙媒体も配信する。 ・添付文書に改訂があった場合、電子媒体にて配信する。 ・医薬品適正情報が出された場合、当該医薬品を使用中の患者リストが作成され、病棟薬剤師へ情報提供する。また、その内容は電子媒体にて配信し、必要に応じて紙媒体でも配信する。 	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無												
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 20 回												
<p>・活動の主な内容</p> <p>平成22年度 研修会開催実績</p> <table border="0"> <tr> <td>研修会内容</td> <td>人工呼吸器関連:8回、</td> <td>除細動装置関連:6回、</td> </tr> <tr> <td></td> <td>補助循環・人工心肺関連:4回、</td> <td>輸液関連:2回</td> </tr> <tr> <td>参加職種・人数</td> <td>医師:44名、看護師:295名、その他:22名</td> <td>合計361名</td> </tr> </table>		研修会内容	人工呼吸器関連:8回、	除細動装置関連:6回、		補助循環・人工心肺関連:4回、	輸液関連:2回	参加職種・人数	医師:44名、看護師:295名、その他:22名	合計361名			
研修会内容	人工呼吸器関連:8回、	除細動装置関連:6回、											
	補助循環・人工心肺関連:4回、	輸液関連:2回											
参加職種・人数	医師:44名、看護師:295名、その他:22名	合計361名											
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	年 24,310 回												
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・業務の主な内容</p> <p>平成22年度 医療機器点検実績</p> <table border="0"> <tr> <td>人工呼吸器</td> <td>9,107 件 (内 定期点検 498件)</td> </tr> <tr> <td>輸液関連機器</td> <td>14,633 件 (内 定期点検1,222件)</td> </tr> <tr> <td>循環関連装置(CRB・IABP等)</td> <td>48 件</td> </tr> <tr> <td>透析関連装置</td> <td>160 件</td> </tr> <tr> <td>閉鎖式保育器</td> <td>16 件</td> </tr> <tr> <td>除細動装置</td> <td>346 件 (内 定期点検 95件)</td> </tr> </table>		人工呼吸器	9,107 件 (内 定期点検 498件)	輸液関連機器	14,633 件 (内 定期点検1,222件)	循環関連装置(CRB・IABP等)	48 件	透析関連装置	160 件	閉鎖式保育器	16 件	除細動装置	346 件 (内 定期点検 95件)
人工呼吸器	9,107 件 (内 定期点検 498件)												
輸液関連機器	14,633 件 (内 定期点検1,222件)												
循環関連装置(CRB・IABP等)	48 件												
透析関連装置	160 件												
閉鎖式保育器	16 件												
除細動装置	346 件 (内 定期点検 95件)												
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況													
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>厚生労働省及び病院機能評価機構のホームページからの医療安全情報の収集および医療機器メーカーからの安全情報の提供。それらの入手情報を病院イントラネットME管理室HPから病院職員への情報提供。取扱説明書の一元管理。医療機器更新時の機種統一化への努力。院内医療機器不具合報告書の運用及びデータの収集、解析、フィードバック。</p>													